

## 兵庫県で働く公衆衛生医師からのメッセージ



豊岡健康福祉事務所長兼豊岡保健所長  
柳 尚夫（やなぎ ひさお）

1981年 愛媛大学医学部卒業  
卒業後すぐに大阪府に入り、臨床4年の後に保健所医師として大阪府大東保健所勤務。その後1年間の大阪府庁勤務以外は、保健所勤務（保健予防係長や支所長）  
2000年 大阪府池田保健所長  
その後茨木、四條畷保健所長を歴任  
2009年 兵庫県洲本保健所長  
2014年 現職

### <保健所勤務をした経過>

私は、学生時代からフィールドワークのサークルに属していたこともあって、公衆衛生分野で働くことも考えました。しかし、臨床分野で精神科医になりたいという思いもあったので、地域で精神障害者を支える仕事は、保健所ならできるのではと大阪府に就職しました。

卒業後の2年間は今の臨床研修医と同じようにローテーションの初期臨床研修を大阪府立の総合病院で経験し、その後2年間は府立の精神科病院で臨床経験をしました。

臨床から保健所勤務に代わるにあたり、もう少し臨床医を続けようかと迷って、府庁の医師のトップに相談をしたら、「君はこれから臨床医として何人の患者を救えると思うか」と尋ねられ「100人か1000人かわかりませんが」と答えると「君が公衆衛生行政でしっかり仕事をすれば、その何十倍の患者を救うことができる」と説得されて、自分の天職を見つけた様に思います。

所長になる前の10数年は、主に保健師を部下に抱える係長や支所長というポストで、保健所に係わる感染症、難病、精神保健、地域リハビリテーション、学校保健、職域保健、医療体制づくりの実務に係りました。現場で、新しい業務を創造する仕事はやりがいもありましたし、臨床医ではできない地域での体制づくりをスタッフレベルでも体験できました。

大阪では、3保健所の所長を経験し、池田保健所時代には大阪教育大学附属池田小学校事件に係わったり、課題の多い精神科病院を閉院させたりと危機管理や医療行政の経験をすることもできました。

### <兵庫県での活動>

大阪府の知事が橋下知事に代わったことをきっかけに、行政機関のあり方が大きく変化し、大阪府の保健行政から去りました。隣接の兵庫県に誘っていただいて、兵庫県の保健所長に転職をしました。

兵庫県は、神戸や阪神間の都会がある一方、瀬戸内海に浮かぶ淡路島や日本海に面した但馬圏域というような郡部があります。私が兵庫県で最初に勤務したのは、淡路島を所管する洲本保健所長でした。大阪で都市部の保健所での勤務を20年以上務めた中では、民間の病院も多数あり、病院間の連携等も困難で、住民も大阪市内の医療機関への受診も多く、1保健所管内での医療体制づくりには限界も感じていました。そのような経験から、淡路島という一つの島の3市を一つの保健所で所管し、12病院と連携も取りやすい環境で仕事ができる事に、わくわくしました。

そして、就任早期に2009年の新型インフルエンザ感染症対策で、地元の医師会とも協力関係ができ、全病院に参加してもらい連絡会も立ち上げることで、管内の医療体制を病院と医師会を含めて継続的に検討して、脳卒中患者の急性期と回復期の連携や、医療と介護の連携システムにも一定の手応えを感じることができました。

ライフワークである精神保健分野では、精神障害当事者をピアサポーターとして養成し、退院支援に相談支援事業所に雇用してもらい事もでき、全国のモデルとなりました。

5年間の洲本保健所勤務の後、現在の豊岡保健所長を既に7年しております。兵庫県の南の端から、北の端への異動でしたが、どちらも自然に豊かな地域でありながら、瀬戸内海の温暖な地域と日本海に面した雪国と全く違う風土の地域を経験できております。現在の但馬圏域でも、淡路島で実施した医療機関の連携のシステム作りや、精神障害者のピアサポートによる地域相互支援システム作りは同じ保健所に勤務が許されることで、着実に実績を上げています。

### <保健所長のやりがい>

2020年からの新型コロナウイルス対策で色々な意味で保健所が注目されています。勿論個々の患者の診断、治療にあたっていただいている臨床医は重要ですが、今回のような新しい感染症に対して、管内全体の医療機関の役割分担や連携の方向性を示して調整するのは保健所長の役割です。管内の全患者の状況は保健所が把握しているので、患者数の増減に応じて、病床のコントロールや転院や在宅医療体制の調整も保健所の仕事です。豊岡保健所管内は、阪神間ほどの感染者数がなかったことや、一般病院の殆どが公立病院であったことから、早期に医療機関間の連絡会議を2ヶ月に1度程度WEBで行うことで、圏域内で入院を殆ど対応できたことと自宅療養者が重症化したときに、スムーズに入院できたことは本当によかったですし、手応えのある仕事でしたし、これからのコロナ対策にも積極的に取り組みたいと思っております。

是非、多くの医師に、保健行政にチャレンジいただき、仲間が増えることを期待しております。